

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」と

「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて



大田区教育委員会広報

平成20年2月1日発行 臨時号

編集発行：大田区教育委員会

〒144-8623 東京都大田区蒲田5丁目13番14号
TEL 5744-1111(代)

HP <http://www.city.ota.tokyo.jp/kyouiku>

子どもたちの学力向上のために

大田区教育委員会委員長 渡邊 盛雄

小学校5年生と中学校2年生を対象に実施された都の児童・生徒の学力向上を図るための調査、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会ではさまざまな取り組みを進めています。今号では、その取り組みの一端をご紹介します。

今回の調査では、基本的な生活習慣の定着が学力を支えていることが明らかになっています。基本的な生活習慣を定着させるためには、ご家庭と学校が協力して取り組むことが必要です。保護者や地域の皆様には、ぜひ教育委員会の取り組みをご理解いただき、子どもたちの学力向上のためにご協力をお願いいたします。



国語の授業（千鳥小学校）

行動指針の作成

大田区立小学校長会長 千鳥小学校長 尾形 威



今年度、小学校長会では「チーム校長会」を合言葉に英知を結集して「学力向上のための行動指針」を作成しました。各小学校では、これを参考に学力向上を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

特に、教員の授業力向上のための校長・副校長の授業観察による指導の徹底、学習習慣の確立の取り組み、朝学習や朝読書の計画的な実施については、全ての小学校で重点をおいて取り組んでいます。

基礎的・基本的な内容の定着

大田区立中学校長会長 大森第三中学校長 大原 一男



各中学校では、学力向上に向け、朝読書や朝学習、夏休みや放課後の学力補充教室などを行っています。また、都の調査結果を受けて、授業改善推進プランを策定・実施しました。さらに、文部科学省の調査結果を受け、授業改善リーダーが中心となり、各教科の研究部会で基礎的・基本的な内容の定着と学力の向上を図るための具体的な方策について研究を深め、区全体の授業改善に取り組んでいます。

文部科学省「平成19年度全国学力・学習状況調査」 調査結果に基づく「授業改善のポイント」

調査結果から、基礎的な知識はおおむね定着しているものの、その知識・技能を活用する力に課題があることが明らかになりました。以下は結果の概要と授業改善のポイントをまとめたものです。

小 学 校

【国語】

結果の概要

- ◆聞き手の反応を確かめながら話すことや話の要点をメモにとりながら聞くことへの理解に課題がある。
- ◆資料から必要な事柄を取り出し、与えられた条件に即して書き換えることに課題がある。
- ◆漢字の読み・書きについては、おおむね定着している。
- ◆文章の内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換えることに課題がある。

授業改善のポイント

- ◆聞き手の反応を見ながら場に応じた声の大きさ、間の取り方、話す速度などを指導する。また、話の要点を短い文章で書く、見出しをつけて内容を分かりやすくするなどのメモの取り方を身につけられるような指導の充実を図る。
- ◆資料から必要な事柄を取り出し、短い文章でまとめる学習活動を取り入れる。目的や意図に応じて内容を要約したり、詳しく書いたりする指導の充実を図る。
- ◆文章の構成についての理解を深めるために、主語、述語のとらえ方や接続詞や接続助詞の役割のとらえ方を通して、2つの内容を一文にまとめたり、一文を内容ごとに分けて書き換えたりする指導の充実を図る。

【算数】

結果の概要

- ◆整数・小数・分数の四則計算は、おおむねできているが、分数と小数の大小関係やそれを数直線上に表すことに課題がある。
- ◆問題の条件を整理して、筋道立てて考えることに課題がある。
- ◆地図から図形を見出し、必要な情報を取り出して面積を比較し、説明することに課題がある。
- ◆グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることに課題がある。

授業改善のポイント

- ◆さまざまな数を数直線上に表す活動などをとおして、数の意味や大きさを理解する活動の充実を図る。
- ◆問題を解決する過程や条件を式や言葉、図で書く活動の充実を図る。
- ◆たくさんの情報の中から、問題解決のために必要な情報を選択する学習活動の充実を図る。
- ◆グラフの読み取りは、目的に応じて情報を選択し、解釈できるような指導を重視する。

中 学 校

【国語】

結果の概要

- ◆聞き手のことを考え、分かりやすい表現で話す力に課題がある。また、相手の話を聞きとる力はあるが、不足している内容を確認する力に課題がある。
- ◆情報から必要な事柄を読み取って、伝えたい事柄や自分の考えを書く力に課題がある。
- ◆表現の仕方や文章の特徴に注意して正確に読み取る力や朗読する力に課題がある。

授業改善のポイント

- ◆「話すこと・聞くこと」と「言語事項」とを関連づけて語い数を増やすこと、「書くこと」と関連づけてスピーチ原稿を書けるよう指導すること、それに加えて、場面（誰に・何を・どのように・どのような目的で話すのかなど）を考えて話す力を身につける指導を充実させる。
- ◆情報を整理する力を身につけるとともに、資料を客観的に読み取り、自分の考えを的確にまとめて書く力を身につける指導の充実を図る。
- ◆比喩などの表現技法を理解させ、表現の特徴とその効果に注意して文章の内容をとらえる力を身につけさせる。また、詩歌や古典の作品に多く触れさせ、表現や文章のリズムに注意して朗読する力を身につける指導を充実させる。

【数学】

結果の概要

- ◆整数を基本とする基礎的な計算はおおむねできている。しかし、分数や少し複雑な計算になるとできない場合がある。
- ◆具体的な事象に対する課題解決力は定着している。しかし、数学的な表現をとらえる抽象的な設問については苦手意識がある。
- ◆文章や図形、グラフから課題を解決することに苦手意識がある。特に内容が複雑なものや長文の応用問題については、無回答の生徒の割合が多くなる。

授業改善のポイント

- ◆具体的な内容から一般化していく過程で生徒の興味や関心を継続させる指導の充実を図る。一般化された事柄を学習するため、具体的な事柄から少しずつ抽象化した課題を提示して学習内容の定着を図る。
- ◆具体的な事柄から数学的な見方や考え方に近づける指導を行う。具体的な事柄の中から基本的な問題を繰り返し解くようにして、解き方を定着させる指導の充実を図る。
- ◆小学校の算数との学習方法の違いを指導者が理解した上で、次のような指導の充実を図る。
 - ・小学校で学習した具体的な事柄による学習を、中学校でも繰り返し指導する。その取り組みから少しずつ中学校の論証へと指導を進める。
 - ・基本事項を繰り返し丁寧に練習し、その定着を図る。
 - ・生徒は情報量が多いと必要な情報を取捨選択して判断することが難しくなる。生徒が理解できるように、教師が情報を整理して指導を行う。

大田区教育委員会の

学力向上・授業改善の取り組みの中から

授業改善推進プラン

授業改善推進プランは、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を踏まえ、全小中学校で作成しています。学力向上を図るための全体計画、調査結果の教科別・観点別の分析、全教科についての指導方法の課題分析と改善策などが記載されています。

自校の調査結果を分析・考察して授業改善推進プランを作成していますので、どのような内容をどのように授業に生かしていけばよいか明確になっています。

なお、授業改善推進プランは、各学校のホームページからご覧いただけます。

国語力の向上

基礎・基本の確実な定着を図るため、国語教育を重要課題の1つとして位置づけ、大田区小中学生漢字検定やスピーチ大会の実施など、国語力の向上を図る取り組みを進めています。

また、平成17年度から3か年計画で学校図書館を整備してきたことを踏まえ、朝読書などの読書活動にも力を入れています。

さらに、大田区緊急2か年計画に基づき、作文補助教材「書くって楽しいね」を全児童に配布しました。作文指導事例集も作成し、「書く力の育成」の一層の充実を目指しています。

学習指導講師

教員を目指す大学生・大学院生、退職した教員など、児童・生徒への学習指導実績のある者を学習指導講師として配置しています。

学習指導講師が単独で授業を行うこともありますし、



学習指導講師による放課後の個別指導 (田園調布中学校)

授業に入って学習指導の補助を行うこともあります。また、放課後や長期休業中の補習教室などを担当しながら、配置された学校の子どもたちの実態に合わせた学習指導をしています。

大田区教育研究会の活動

大田区立学校の教職員の研究と修養を深め、その成果を教育の振興・発展に資することを目的として活動しています。一斉部会は年6回、研究授業に向けての事前研究会などは随時開催しています。2000名を超える大田区立学校(園)の教職員が参加しており、44の研究部が活動しています。

また、研究部とは別に、幼小中連携の会があります。ここでは、それぞれの学校段階の円滑な接続や連携について授業公開や協議会を開催しています。



外部講師による英語の授業(貝塚中学校)

授業改善リーダー

国語、算数(数学)、理科、社会、英語(中学校のみ)の教科指導で実績がある小中学校教員合わせて36名を授業改善リーダーとして指名しました。

授業改善リーダーは、各調査結果を分析し、大田区の子どもたちの課題はどこにあるのか、授業でどのような工夫をすればよいかなどを具体的にまとめた「授業改善のポイント」(表面参照)を作成しました。

2学期には、「授業改善のポイント」に基づき、授業改善リーダーが自ら授業を実践し、公開しました。そして、その授業実践を12月26日に授業改善セミナーで多くの教員へ報告しました。



授業改善セミナー(池上会館)

データ 学力向上の基本は 基本的生活習慣の確立から

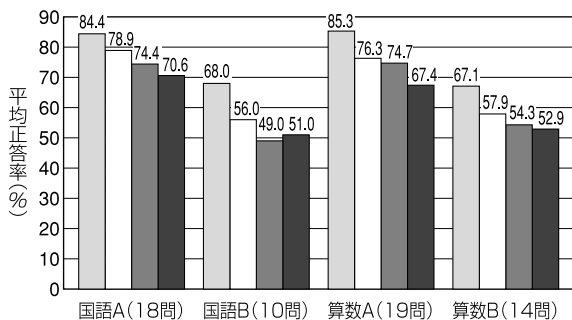
このデータは、平成19年4月24日に行われた文部科学省の「全国学力・学習状況調査」の結果です。改めて、基本的生活習慣の定着が、学力を支えていることが明らかになりました。各ご家庭におかれましては、お子さんが基本的な生活習慣を身につけることができるようご指導をお願いします。

なお、国語A、算数(数学)Aは「主として知識」に関する調査であり、国語B、算数(数学)Bは「主として活用」に関する調査です。

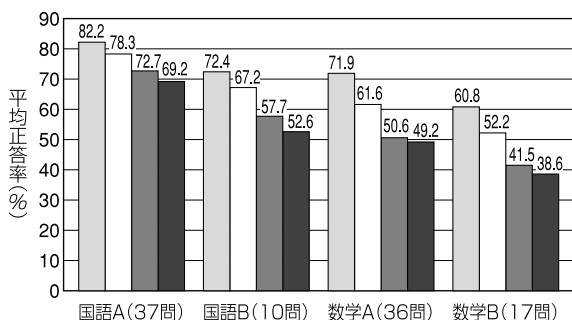
◻朝食について

朝食を「必ず食べる」、「たいてい食べる」と答えた小学生の割合は94.5%、中学生の割合は89.3%となっています。「食べない」、「食べないことが多い」と答えた子どもたちにしっかり朝食をとる習慣をつけさせるようにしたいものです。平均正答率との関連で見ると、朝食を「必ず食べる」と答えた子どもの平均正答率が最も高くなっています。

朝食を毎日食べていますか(大田区立小学校6年生)



朝食を毎日食べていますか(大田区立中学校3年生)

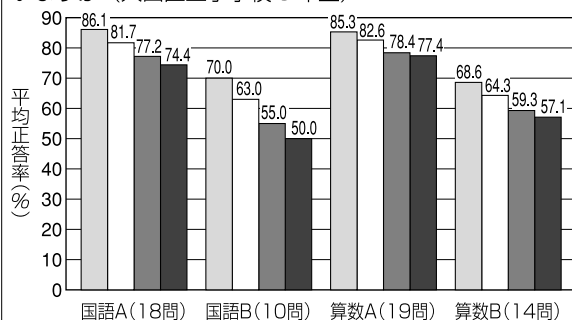


必ず食べる □ たいてい食べる ■ 食べないことが多い
食べない

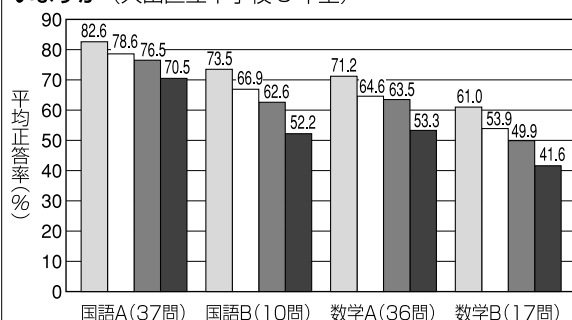
◻学校に持っていくものの準備について

前日、またはその日の朝に学校に持っていくものを「確かめる」、「どちらかといえばしている」と答えた小学生の割合は83%、中学生の割合は83.7%でした。平均正答率との関連で見ると、学校に持っていくものを確かめる頻度が高い子どもたちほど、平均正答率が高くなっていることがわかります。

学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか(大田区立小学校6年生)



学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか(大田区立中学校3年生)



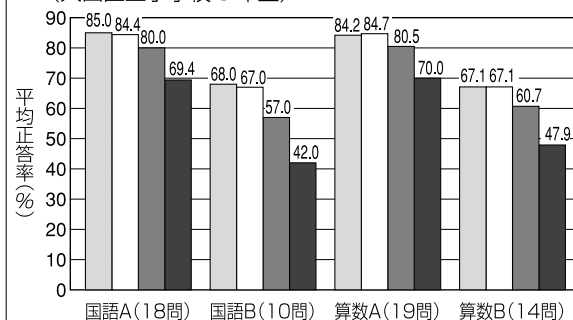
している □ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない

◻身辺自立について

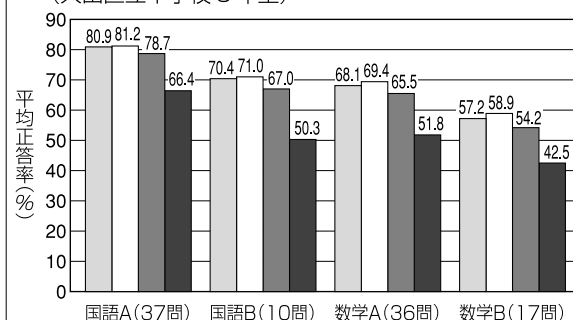
身の回りのことを自分で「している」、「どちらかといえばしている」と答えた小学生の割合は80.5%、中学生の割合は83.8%でした。

平均正答率との関連で見ると、「している」、「どちらかといえばしている」と答えた子どもの平均正答率は、「あまりしていない」、「全くしていない」と答えた子どもの平均正答率よりも高くなっています。

身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか(大田区立小学校6年生)



身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか(大田区立中学校3年生)



している □ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない